

龍ヶ崎市_令和 7 年度「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」推進支援業務

第 1 回学校連携分科会

時間：2025 年 9 月 22 日（月）15：00～16：30

場所：龍ヶ崎市庁舎附属棟 2 階 第 1・2 会議室、オンライン

事務局：スポーツ推進課

ファシリテーター：デロイトトーマツコンサルティング合同会社

<分科会参加者>

- 福祉部次長
- 健康スポーツ部次長
- 流通経済大学
- 龍ヶ崎市学校長会
- たつのこまちづくりパートナーズ（オンライン）
- クラブ・ドラゴンズ
- 茨城県山岳連盟

議論事項

- 「体験・学習機会の創出」における目指す姿
 - 事務局）「体験・学習機会の創出」を実現するための理想像を実現するに向けて、学校へ特設ウォールを持ち込んで、体験会を開催するパターン①、各学校に常設するパターン②をご紹介したが、実現性等の観点でご意見を伺いたい。
 - ◇ 参加者）体験機会を提供したい対象学年はあるか。
 - 事務局）小学校への導入を優先したいと考えている。
 - ◇ 参加者）実現に向けて、ニーズとして実際の生徒の声があることを示せるとよりスムーズに各所への調整が進むのではないか。肋木を導入した小学校の生徒の実際の声があるとよい。また、高学年の生徒は現状導入している肋木クライミングウォール（以降肋木ウォールと呼称）では物足りない可能性も考えられるため、興味を持った生徒へ別途練習環境を紹介できるとよい。肋木ウォールの難易度調整は可能なのか伺いたい。
 - 事務局）ホールドに数字や色を活用して課題ルートを設けることで、難易度の調整は可能。
 - 参加者）現在肋木ウォールを導入している小学校において、授業とは別に講習会のようなものは実施しているのか。
 - 事務局）現状していない。
 - 参加者）体育の教員へヒアリングする中で、授業以外での使用機会創出に向けたアイデアはいただいても良いだろう。
 - ◇ 参加者）使用する壁のサイズが大きくなると、その分怪我のリスクも上がる。体験会開

催中に事故が起きた場合、教員の管理責任が問われるのであれば、現在導入されている肋木程度の壁でよいのではないか。

- 参加者) 学校での授業としては、色々なスポーツを体験することが目的であるため、導入としては現在の肋木ウォール程度で問題ないと考えている。そのうえで、技術の向上を目指したい生徒の受け皿として、クライミングクラブの設置等を検討することが重要だと思う。
- 事務局) 参考として、学校連携を既に実施している他地域の状況を伺いたい。
- 参加者) 鉾田市では、市内施設にて学校の授業として体験会を開催している。肋木程度であれば怪我の問題は稀だと考えてよい。一方で、2m を超える壁になると、小学 6 年生でも登ってから自力で降りられなくなるケースはある。そのようなケースでの現場監督者の対応には最低限の専門知識が必要になるため、レクチャーが必要だろう。

◇ 事務局) 学校へ特設ウォールを持ち込む場合、授業以外での使用は可能か。

- 参加者) 安全面等の観点から、休み時間等での使用は難しいと考えている。
- 事務局) ここまでの議論を踏まえ、肋木ウォールを導入した小学校における生徒の反応や、生徒の反応を踏まえた授業以外での活用方法に関して現場教員へのヒアリングを行うことや、肋木ウォールの難易度設定等についても、今後検討したい。

◇ 参加者) 学校にスポーツクライミングを取り入れることで、体力テストで特定の項目の平均値が上がったというような定量的な効果をしめすことができれば、関係各所も協力に前向きになるだろう。

➤ 参加者) 今年度のゴールは実施計画の策定とあるが、将来的に目指す姿の共通認識化とあるが、いつ時点での実現を想定しているか。

◇ 事務局) 現時点で明確な時期は設定していない。

◇ 参加者) 理想像に「全児童に対する体験機会を提供」とあるが、全児童向けに開催することは正直難しいと考えている。とはいえ、体験会の開催頻度、開催場所が上手く計画に落ちてくればよいと思う。

◇ 参加者) 市内の一部保育所ではスポーツクライミング体験の取組が始まっているため、裾野を広げるという意味ではよいことだと考えている。

● 「定期的に練習が可能な機会や制度等の確立」における目指す姿

➤ 参加者) クライミングで市を盛り上げていくための取組であるが、トップ選手を生み出したいのか、スポーツクライミングを市に根付かせたいのかでいうとどちらか。

◇ 事務局) まちづくり事業として推進している取組であるため、実際に体験する人が増え、親しみを持ってもらうことが最重要であり、裾野を広げることが優先である。ただし、差別化という意味ではトップ選手がいる、育てる環境があることは重要である。

➤ 参加者) 指導者の確保について、JMSCA と日本スポーツ協会等が連携しスポーツ指導者の養成・認定を行っており、その中にスタートコーチという資格が存在している。学校の授業への導

入を考えるのであれば、学校の先生にも当資格は取得いただいた方が良いのではないか。この資格は、地域のスポーツクラブや学校運動部活動等において安全で効果的な活動を提供するための資格として位置づけられている。

➤ 事務局) 定期的な練習環境の整備にあたり、スポーツクラブを運営するメンバーの状況等を伺いたい。

◇ 参加者) クラブ・ドラゴンズで行っている部活動の地域移行の取組について、野球とサッカーは月会費 5,650 円/月で週 4 回の練習を行っており、現在は 40 名が在籍。陸上のクラブは月会費 9,940 円/月で週 4 回の練習を行っており、高校生も含め現在 35 名が在籍。

◇ 参加者) たつのこアリーナでは、スポーツライミング、バスケ、バレーボール、ダンス等の教室を開催しており、3 か月区切りで週 1 回程度の計 10 回程度開催しており、料金は 1 万円前後で設定。ボルダリング教室は 1 クラス 15 名定員で、の計 5 クラスで開催している。参加者は小学校の低学年から高学年、中学生もあり、現在参加者は全クラスで上限に近い。バスケ、バレーボール教室は 20 名程度の定員で、参加者が多く盛況。

- 事務局) ボルダリング教室に通っている生徒らが中学生に上がった際の活動の受け皿が地域クラブになっていくとよいと考えている。

- 参加者) 部活動からクラブに移行するにあたり、会費を保護者に納得していただける価格設定とすることも重要になる。

◇ 参加者) 部活動やクラブの運営について、指導者側がどの程度コミットするかという覚悟次第だと考えている。実際に部活動やクラブを推進する人が龍ヶ崎に根付き、市内にある環境・リソースの中で何を指すのか、その指導者の熱意がどこまでであるかで部活動やクラブの在り方は全く変わってしまう。指導者の熱意が、部活動やクラブの在り方を決める重要な要素だと考えている。

◇ 参加者) 例えば裾野を広げる取組として、笠松スポーツフェスティバルというイベントが定期的に開催されている。そのようなイベントを龍ヶ崎市でも開催することにより、そこで興味を持った参加者がたつのこアリーナに集まり、競技志向の選手が出てくることも考えられる。陸上競技のように指導が確立していないことがスポーツライミングの課題となっている中で、まずは触れる機会をたくさんつくることが重要だと思う。

◇ 事務局) スポーツライミングにおいてどのように持続可能なモデルを作っていけるか検討していきたい。

- 2026 年度の体験会開催に向けた実現方法

➤ 事務局) 体験会開催にあたり、対象年齢はどの範囲で設定すべきかご意見をいただきたい。

◇ 参加者) 課題の難易度次第で、1～6 年生まで幅広く楽しめると思う。

◇ 参加者) いずれにせよ、対象となる学校は早めに決めた方がよい。

◇ 事務局) 教育委員会と別途検討の場を調整する。

以上